



季刊 すまいる



寂光院

大原を代表する寺院の一つ。聖徳太子の創建と伝えられる天台宗の尼寺で、平清盛の娘、建礼門院が平家一門と子、安徳天皇の菩提を弔い、余生を過ごした。本尊は六万田地蔵尊菩薩。宝物殿「風智松殿」には、『平家物語』の大原御幸、建礼門院についての資料が並ぶ。趣のある山里にある境内では、晩秋の紅葉がよりいっそう風情を添える。



丹後ぐじ

「ぐじ」とは京都ならではの呼び名で、丹後で水揚げされる高鮮度なアカアマダイのこと。10月〜12月に旬を迎え、京料理には欠かせない食材の一つ。平成24年には「京のブランド産品」に認証された。上品な甘みを持ち味で、焼き物、吸い物、蒸し物などさまざまな料理で楽しめる。

平安時代、九条で栽培されていたという記録が残るほど、その歴史は古い。長くて柔らかく、風味のよい葉ねぎで、細ねぎと太ねぎの二つの系統に分けられる。特徴は他の葱より強いぬめり。このぬめりに香りと甘さが凝縮されている。味噌汁の具やうどん、そばなどの薬味、ぬたあえ、鍋物、ねぎ焼きなどに。

九条ねぎ



秋のハイキング

さわやかな秋空のもと、ハイキングで京都の紅葉を楽しむのもおすすめ。鞍馬寺から木の根道を歩く貴船神社へのコースや、高雄から清滝川に沿って嵐山まで歩くコース、銀閣寺から大文字山へ登るコースなど、日帰りで観光やグルメも盛り込めるコースが多彩にある。ただし、距離は短くても上り坂や山道の場合もあるので、無理をせずに楽しみたい。

火焚祭

11月、貴船神社、城南宮など京都の多くの神社で行われる神事で、御火焚祭、新嘗祭、冬祭とも呼ばれる。収穫に感謝し、厄除けを願って奉納された護摩木（火焚串）を焚き上げる。神社によっては神楽や舞いが奉納される。例年11月8日に行われる伏見稲荷大社の火焚祭は全国一のスケールとされ、3基の火床から立ち上る炎は圧巻。



国立循環器病研究センター 移転・建て替え構想について

講師

地方独立行政法人 神戸市民病院機構
副理事長

橋本 信夫氏



橋本信夫先生は、京都大学脳神経外科教授を経て、平成20年より国立循環器病研究センター総長・理事長をお務めになりました。現在名誉総長・顧問を務めておられます。平成30年に向けての移転・建て替えについての経緯、また新しい医療構想についてお話を伺いました。

国立循環器病研究センターが生まれ変わる経緯

本日は、私が国立循環器病研究センターでやってきたこと、そこで考えてきたことをお話したいと思います。国立循環器病研究センターは(以降「国循」、昭和52年に大阪の吹田にできた主に脳と心臓を診るセンターです。およそ1500人の職員がいる組織で、現在は緑に囲まれた非常に閑静な住宅地にごさいます。実は平成20年に私が国循に総長として行った時には、既に現地建て替えの計画ができており、設け方もできていて、あと杭を打つ直前の段階に至っております。順次建物を壊しては次を建てるという構想でありました。

ただこれには大変問題があると思

い、厚労省とセンターが丸となって計画を進めてきたものを、一時凍結、結果的にはキャンセルという形にしました。これは最終的には厚労省が理解をし応援していただいたので上手くいったと思うのですが、なぜそこまでできたものを止めたかということをお話ししたいと思います。

誰にも、どこにも良い所・悪い所がありませんが、悪い所を直すのは勿論大事ですけれども、いかに良い所を伸ばすかが大事だろうと思います。国循について言えば、まず心臓血管と脳血管が併設されています。世界的に大きな施設ではストロークセンターとハートセンターは別々です。ところが国循はこれが併設されている。これは利点でもありますし、欠点でもある。私が部長で国循に行きました時には「脳はいらない、心臓だけにしろ」という雰囲気があったのをよく覚えています。確かに一つにした方がその病気については大きな利点がありますが、今になってみると脳と心臓というのは極めて密接な関係がありますし、臨床的にも関係がある、そして血管生物学という観点からも極めて関係があります。

で、併設している意義は極めて大きいと思っけています。事実韓国ソウルナショナル(ソウル大学校病院)とかヨンセイ(韓国・セブランス病院)とかは、脳卒中と心臓を併設する研究所或いは施設を作りたいということで、何度も国循に見学に来ております。

もう一つは高度専門病院と課題解決型の研究所が併設されているということです。大学の医学部は課題解決型ではなくてあくまでもサイエンティフィックな事実を究明していく。結果的に臨床と結びつけばそれはそれでい



いということですが、国循の研究所は臨床の問題をどう解決するかを使命としています。もう一つは西日本にある唯一のナショナルセンターであるということとです。西日本に2番目のナショナルセンターを作ったということは、結果的に日本の医療にとって極めて大きな意義があったと思いますが、国あるいは厚労省から遠いという欠点があります。寧ろ離れているから良いという部分もあると思います。

当時、私は新しいものを建設するにあたり、「最先端のその先へ」ということでビジョンをまとめました。ナショナルセンターとしてのミッション、それを遂行するにはどうしたら良いかということについて書き、周囲では「橋本ビジョン」と呼ばれました。ナショナルセンターのミッションは循環器病の予防と制圧であり、そのために先端医療技術あるいは医療機器の開発、病院と研究所の一体化、そして自分たちだけではなく外部を入れる、民間を入れるというようなオープンイノベーションなどのフレーム枠を作りました。

そのために建物を一つにしてその中

に病院と研究所を一体化させる。同じ敷地に病院と研究所が別棟にあると、一緒に仕事をすることにならないというのが国循に行った時の最初の印象でありました。そこに民間企業を含めたオープンイノベーションのための拠点を作るということと、コアとしての研究センターを作ることを目指しました。もう一つの視点は積極的に外部の設置母体の組織に入って行って、一緒にやることによってイノベーションを図るといふものです。それはエリアとして作らなければならない、そのエリアが活性化すれば、自分たちの立地条件も良くなることに繋がると考えてのこととあります。紆余曲折はありましたが、J R東海道線で新大阪のすぐ近くの吹田操作用場跡地に移転をすることにになりました。平成30年度末に完成する予定です。

北大阪健康医療都市構想

このエリアを北大阪健康医療都市として地域全体に全長4kmの遊歩道を整備するなど、健康維持や病氣予防のサポートにも力を入れ、循環器病研究センターを中心に、健康を志向した複合



商業施設を作り、ホテルなども入る予定です。もう一つは総合病院が近くになければいけないということで、運よく吹田市民病院を隣に持つてくることになりました。また住宅地に800戸が入居する健康マンションが建設され、住民はウェアラブル端末で国循サービスと繋がるができます。国循はそこから医療情報を得て住民にはそれをフィードバックすることができ、今後の医療に向けた情報を発信することができます仕組みになっています。またイノベーションパークには企業や民間の業者が入って、一緒にやっていく形に

なりません。また循環器病研究センターの隣に1ヘクタールの土地を確保し、将来的には治療した患者さんがステッブダウンしていつて、地方に帰っていくことができるような、そこでまた情報を得るといようなことをやっていきたい。当面職員がすぐに駆けつけられるということを条件に、職員の住宅用地として活用していきます。

建て替えにあたっての問題点と今後の展望

医療環境は刻々と変化しますが、ある時突然変化することもあります。今の循環器病研究センターの建物は、昭和40年代の後半に設計されたもので、その時にはCTとかMRIはなかった訳です。いわゆる改修工事で壁を取り払うことはできない、そういう制約の中で新しい医療をやっていくのは、極めて難しいことでした。今は建築の方法も大変進化して、かなりフレキシブルに変えることができる。床や天井を這っていたケーブルや配管も全部壁面にして、柱も最大18mの間隔に持つていくことができるようになっていて、かなり柔軟な対応ができるもの



なると思います。新センターを作るにあたってスタッフに再三言いましたのは柔軟性、先見性、俯瞰性です。すなわち「医療環境は刻々と、時に突然変化する」、「今、ベストな病院を作るのではない」、「今の自分の領域にこだわるな」ということです。あとの二つは極めて難しい。結局は今自分たちが使いたい部屋がほしい、その部屋はもう少し広くして欲しい、そういう所から抜けることができないんですね。この先見性と俯瞰性については、強いリーダーシップでやっていかないと、結局は陣地取りみたいなことになってしまふと思います。スタッフには冒険的に大失敗でも良いから、今までになかった提案をしろと再三言いましたが、なかなかそれは出てこない。難しいところ

るです。

新しい建物の全長は270m、幅が80mくらいの極めて大きな建物になります。今の建物は100mですので、国循主導で企業や大学などの研究者と共同研究を行う拠点である、約1万㎡のオープンインベーションセンターも整備します。おそらくJR岸辺駅からも新幹線からもよく見える建物になると思います。駅から直結でフラットに外来までいくことができる陸橋は既に完成しています。

国立循環器病研究センターの取組み

循環器医療センターは病院食が非常に美味しく、しかも減塩ということでもレシピ本を出したら、30万部くらい売れてベストセラーになりました。これはミツシオンとしては、国民の食塩の摂取量を2g減らすと、循環器疾患の死亡が2万人くらい減るということに基づいています。血圧を2ミリ下げるとは食塩を2g減らすということになります。食生活を改善するために、日本中から減塩のレシピを募り、「S-1g グランプリ」という塩を1g減らすグラ

ンプリをやりまして、1等賞には100万円の賞金を出しました。かなり応募があつて書類審査をした上で、実際に一堂に集まつて作つて頂きました。そういう試みで減塩の活動が広がればと思つています。また循環器病予防のために「塩を軽く使つてうまみを引き出す減塩の新しい考え方」を一般に広める、「かるしおプロジェクト」にも取り組んでいます。センター認定の「かるしお認定」商品も食品会社と連携して商品化されています。国立循環器病研究センターの移転と絡めて、センターの取り組みについて紹介させていただきます。



橋本 信夫 (はしもと のぶお)

地方独立行政法人 神戸市民病院機構 副理事長。
京大名誉教授。
国立循環器病センター名誉総長・顧問。

2016年9月17日、京都ホテルオークラで行われた「京都きつ川病院 秋の文化講演会」の内容を抜粋して掲載させていただきました。

講演に集まれた皆さんへ、ご友人との
興味深いエピソードも披露されました。

A friend of mine and a story of
a fake

以前、米国の学会に名譽ゲストとして招待されました。4日間毎日特別講演をして5日目の最終日には専門外の話を一時間せよとのことでした。今日はその時にした専門外の話を紹介したいと思います。

題名は「私の友達と偽物の話」です。私の高校の同級生である、小林英樹の話であります。小林君は東京芸大の油絵に進みました。

私は脳外科医になりましたが、彼は東京芸大の油絵を出ても中々売れる絵描きにはなれません。

大阪で美術予備校の講師をしていましたが、ある時、家財を札幌駅留めに置いて奥さんを神戸に置いて、息子2人を連れて雪の降る札幌に行ってしまった。そこで小さな塾を開いた。落ちこぼれの子どもたちを預かって塾をやっているうちに、その子どもたちが北大に入り、札幌医大に入り、お世話

になったという事で今度は教えに来るようになり、良い循環になってその塾はとても栄えたのですが、やがて大手の予備校が来るようになって、塾の経営も怪しくなっていました。

彼の奥さんのしのさんが、体調が悪く白血病と診断された。白血病を治療している内に、末期の卵巣がんも見つかった。病気を2つ抱える状況になりました。

これは丁度私と小林が50才になる頃で、塾も寂れるし、奥さんは絶望的な状況にあった。50才になってこれから絵描きとしての道もない、そういう中でバインダーにコピーの入ったものを送ってきました。ある時それを何の気なしに見直すと、「ゴッホの寢室」の絵について書いてありました。「ゴッホの寢室」は非常に有名な絵で、3つ油絵、2つスケッチがあり、ゴッホはこれについて手紙を沢山書いていて、少なくとも13通この寢室の絵について書いたものが残っているわけです。

小林は中学校の英語の教科書に、ゴッホが弟のテオに宛てた手紙とスケッチが載っているのを見て、こんなものをゴッホが描くはずがない、これは偽物だと思ったわけです。ただ何故偽物か

という事は、かなり詰めないと言えない、それで小林は考察したものを送ってきたわけです。実はこれをゴッホの研究家とか出版社に沢山送っているのですが、その一つを私にも送ってきました。一見すごく下手くそな絵なのですが、小林が実際に行ってみてきたゴッホの部屋は四角い部屋ではなくて、とても変な形をした部屋だそうです。実際にはゴッホは非常に忠実に描いている。小林が目にしたのは、一つは窓です。オリジナルのものは、窓がちゃんと内側に開いている。ゴーギャン宛の手紙に入ったスケッチも、窓が内側に開いている、シカゴ美術館にあるゴッホ本人が描いたレプリカも、パリのオルセー美術館にあるものも窓が内側に開いている。

ところが小林が偽物だと思った弟のテオに宛てた手紙に添えられていたというスケッチは、部屋が広すぎるし、窓の表わすメッセージにも気づいていない。何故これがゴッホ美術館にあるのに誰も偽物だという指摘をしないのか、画集や評論には「ゴッホの代表的な1枚」として扱われている。小林はこれを不思議に思ったわけです。テオの妻ヨハンナはゴッホの死後24年間、1枚も売れないゴッホの絵を保存して

いた。その後ゴッホの絵が評価されるようになってきて、はじめてヨハンナが公開した。おそらくヨハンナがいなければゴッホの画は散逸して多くが失われていたのではないかと。ゴッホ美術館にゴッホ家が寄贈したという由来もはつきりしているので誰も指摘できなかったのではないかと。おそらく手紙は残っていたが絵はなくなっていて、ヨハンナがゴッホではない人が描いたものを紛れ込ませたのではないかとというのが小林の推理であります。

私は是非出版すべきと思います、小林と二人であちこちの出版社を廻りました。結果的にノンフィクションとして『ゴッホの遺言』(情報センター出版局)という著作として出版され、「日本推理作家協会賞」を受賞し、ベストセラーになりました。NHKの「ゴッホの死の真相」という番組にも出演し放映されました。一連のことから彼は北海道の北海学園の教授になりました。

絶望的な状況の中、彼の渾身の推理をゴッホの研究家や世の中が誰も取り合ってくれない中、私というプロではない友人に送ってくれたことが一連の良い方向へのきっかけになったという、私の友人の話を見せていただきました。

地域の方々、 スタッフとの協調を大切に

リエゾン羽束師(伏見区羽束師)

すまいる レポート

啓信会グループ
関連施設

◎安心感のある職場づくり



前田照和センター長。きづ川病院野球部でも活躍中

リエゾン羽束師は、現在5つの介護サービス事業を行っている高齢者施設です。京都屈指の古社としても知られる羽束師神社のすぐ近くの自然環境にも恵まれた場所で、今年開設6年目を迎えました。

開設当初から地域のイベントに参加するなど交流の機会を増やしてきました。デイサービスが休みの日は、地元自治会の会合に場所を提供しています。

前田センター長は「地域の方々との、またスタッフ同士の『協調』を大切にしています。ひとつにまとまるのが、利用者様の安心感につながるはず」と、いつも思いを職員にも伝えていきます。

「職員同士が、協調し助け合う関係づくりの二つとして、『あいさつ十ひとこと』の声かけも習慣にしています」とセンター長。挨拶や掃除といった基本的なことから、風通しのよい職場環境づくりにも気を配っています。

グループホーム

ご利用者は、今持っている能力をできる範囲でつかって職員と共同で生活しています。職員とのコミュニケーションが密接で、長く入居されている方が多いです。

小規模多機能ホーム

「通所」「訪問」「泊まり」の3つのサービスを組み合わせて利用できます。いずれも顔なじみの職員が担当するのでご利用者には安心感があり、時間や曜日に関係なく利用できるのが、ご家族にとっても重要な位置づけになりつつあるサービスです。

訪問介護

「生活援助」と「身体介護」の2つのサービスを提供しています。最近では、最期までご自宅とい

うご利用者の希望に「看取り介護」も増えています。医療・介護チームのなかで最もご利用者に近い立場から、よりよい介護ができるよう努めています。

デイサービス

介護予防のため、日常生活動作を維持・向上するトレーニングをしています。機能訓練指導員がご自宅の状況などを見て、個別に目標を設定してアドバイス、指導をするより具体的なサービスも行っています。

居宅介護支援(ケアプランセンター)

介護サービスをこれから受けられる方へのアドバイス、要支援から要介護へ、病院から在宅へといった時に、安心して暮らしていける体制を整えるお手伝いをしています。



デイサービス



「低温やけど」に気を付けましょう

これからの本格的な寒さに備えて気を付けたいのが「低温やけど」です。強い症状が出ないため気が付きにくく、重症化しやすいのが特徴です。暖房器具の使い方を守って「低温やけど」を予防しましょう。

●低温やけどとは

低温やけどは通常のやけどと違い、体温より少し高い温度、温かくて気持ちいいくらいの温度など、さほど高温でなくても起こります。暖房器具などの熱源を長時間使用したり、肌に直接当てたりすることで、低温やけどを起こしてしまつことがあるのです。原因となる主な暖房器具は、使い捨てカイロ、湯たんぼ、あんか、こたつ、ホットカーペット、温風ヒーターなどです。

とくに注意しなければならないのは、低温やけどを負っても皮膚表面が赤くなる程度で痛みもあまり出ないため、気が付きにくいことです。皮膚の奥深くで進行するので、重症化しやすく治りにくいのです。

●予防するためには

低温やけどを予防するには、暖房器具の使い方とくに次の点に気を付けましょう。

- 肌に直接あてない。
- 体の同じところに長時間あてない。
- 就寝時には使用しない。

たとえば湯たんぼや電気あんかなどは、就寝前に布団に入れて布団を温めておき、就寝時には使わないようにします。電気毛布も就寝時には電源OFFに。また使い捨てカイロは取扱説明書の使用方法、使用時間を守り、ベルトやサポーターなどで圧迫しないようにしましょう。貼ったまま眠らないよう、お忘れなく。

それぞれの暖房器具の使い方を守って低温やけどを予防し、暖かく快適に過ごしましょう。



わが町 歴史探訪

古代からの歴史に彩られた街、城陽市。当院のご近所の史跡をご紹介します。

近鉄久津川駅から

5分ほど歩くと、壮大な「久津川車塚古墳」が現れます。5

世紀前半に築造された全長272mの南

山地域最大の前方後円墳で、国指定史

跡です。後円部中央には長持形石棺（現

在、京都大学総合博物館所蔵）が埋葬さ

れており、鏡7面、甲冑5領のほか

多くの玉類などが発見されました。

南山城地域を支配した有力者の墓と考えられています。墳丘西側には見

学コースもあるので、その大きさをより実感できます。

「久津川車塚古墳」から東方約150mには、ほぼ同時期の築造と

南山城地域最大の古墳群の名残り 「久津川古墳群」

国指定史跡



丸塚古墳



久津川車塚古墳

される「丸塚古墳」があります。全長104m、前方部が低く短い帆立貝形の前

方後円墳です。前方部から大型の家形埴輪が出土しており、城陽市歴史民俗資料館に展示されています。

これらの古墳や遺跡を紹介する「城陽市史跡巡りマップ」が発行されています。（城陽市ホームページからダウンロードできます）近鉄久津川駅、JR城陽駅を起点としたルートが載っているので、お出かけに活用されてはいかがでしょうか。

（協力）城陽市観光協会、城陽市教育委員会／協力写真提供：城陽市歴史民俗資料館



病院内の行事や予定などのお知らせです。
また、病院のホームページでは、最新の情報を掲載していますので、
ぜひご覧ください。

啓信会 ウェブ検索

<http://kyoto-keishinkai.or.jp>



京都きづ川病院

院長 中川 雅生
TEL.0774-54-1111 FAX.0774-54-1118

啓信会グループ

理事長 中野 博美

医療法人 啓信会 京都四条病院

<京都市下京区東堀川通四条下ル東側>
院長 中野 昌彦
TEL .075-361-5471
FAX .075-343-9211

医療法人啓信会 介護老人保健施設 萌木の村

<城陽市寺田奥山1-6>
施設長 大隅 喜代志
TEL .0774-52-0011
FAX.0774-52-0701

医療法人啓信会 介護老人保健施設 ひしの里

<久世郡久御山町佐古内屋敷81-1>
施設長 横田 敬
TEL .0774-43-2626
FAX.0774-43-2627

医療法人 啓信会 きづ川クリニック

<城陽市平川西六反44>
院長 青谷 裕文
TEL .0774-54-1113
FAX.0774-54-1115

関連施設

- 京都四条診療所
- 四条健康管理センター

在宅サービス

- 訪問看護ステーション きづ川はろー
- ヘルプステーション 萌木の村 21
- ヘルプステーション リエゾン大津
- ヘルプステーション リエゾン大久保
- ヘルプステーション リエゾン四条
- ヘルプステーション リエゾン健康村
- ヘルプステーション リエゾン羽束師
- デイサービスセンター リエゾン健康村
- デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里
- デイサービスセンター リエゾン羽束師
- 認知症対応型デイサービスセンター リエゾン 萌木の村
- 認知症対応型デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里
- 介護予防デイサービスセンター リエゾン 萌木の村
- 介護予防デイサービスセンター リエゾン宇治
- 居宅介護支援事業所 リエゾン大津
- 居宅介護支援センター 萌木の村
- 居宅介護支援センター リエゾン四条
- ケアプランセンター リエゾン健康村

- ケアプランセンター リエゾン久御山ひしの里
- ケアプランセンター リエゾン羽束師
- 城陽市在宅介護支援センター 萌木の村

地域密着型サービス

- 小規模多機能ホーム リエゾン萌木の村
- 小規模多機能ホーム リエゾン健康村
- 小規模多機能ホーム リエゾン久御山ひしの里
- 小規模多機能ホーム リエゾン羽束師
- グループホーム リエゾン萌木の村
- グループホーム リエゾンくみやま
- グループホーム リエゾン健康村
- グループホーム リエゾン羽束師

教育部門

- ケアスクールリエゾン 大久保校
- ケアスクールリエゾン 大津校



医療法人 啓信会

京都きづ川病院

〒610-0101 城陽市平川西六反 26-1 TEL 0774-54-1111 FAX 0774-54-1119
URL <http://kyoto-keishinkai.or.jp/kizugawa>